

自由応募分科会 3「ベトナム社会の上位層」

司会 荒神衣美（アジア経済研究所）
報告 1 石塚二葉（アジア経済研究所）
報告 2 藤田麻衣（アジア経済研究所）
報告 3 伊藤未帆（神田外語大学）
討論 園田茂人（東京大学）

かつて社会階層研究の中心的理論であった「近代化論」に反し、移行経済国では経済発展の進展後も、経済社会的な上昇移動が政治的コネクションや家族背景といった本人の努力ではどうにもできない条件に規定される傾向が根強いといわれる。はたして、ベトナム社会にもそうした特徴が見出されるのだろうか。

本分科会では、現在のベトナムにおいて、どのような人々がどういった条件下で上層に台頭しているのかという点の質的な解明を通じて、ベトナム社会の開放性・閉鎖性についての議論を試みる。職業を基準とした社会階層枠組みを用いたとき、ベトナム社会の上層に位置付けられるのは、指導層、企業経営者層、高度専門技術職層の3職業階層である。本分科会の各報告では、これら3つの職業階層の形成過程と特徴を、歴史、制度、経済の諸側面から精査する。

3研究報告からは、ベトナム社会における上昇移動に以下のような開放性・閉鎖性が伴うことが見出される。まず、上層への参入には基本的に強い閉鎖性が伴う。一方で、2000年以降、上層内に新たな層が出現し、上層への参入にわずかながら開放性が芽生えている。しかし、それゆえに、上層内での分断が顕著になりつつある。すなわち、上層と括られる人のなかでも、伝統的な上層と新たに芽生えた開放性のなかで新規参入した層との間には、顕著な資源保有格差がある。

討論では、こうした特徴が、同じ社会主義体制をとる中国の社会発展と比して、どう共通・相違するのか、またその背景について議論される。